

図書館報 ぶらっつ

★篠崎

033号



特集「君の手に乾杯。」

そのメロディに魅せられて♪

P3 「手のひらを太陽に」
（「親子で歌いつごう 日本の歌100選」収録）

P4 人物ブックマーク
「片倉小十郎景綱」

P4 スタッフのセレクション！
「百瀬、こっちを向いて。」

新たな気持ちで新年を！

いよいよ今年も残りわずかとなりました。年末年始はクリスマス、大晦日、お正月などイベントが盛りだくさんで何かと忙しい時期。中でも大掃除は今年中に終わらせたいところ。図書館には掃除、収納、整理に関する本がたくさんありますので、この時期に是非ご活用下さい。

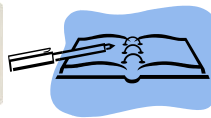
たとえば、本の扱いにお困りの方もいるかと思いますが。図書館から借りた本、読み終えた本、積読本などたくさん本をきれいに収納、整理するには……。そんな時は、本棚の整理術の本を参考にしてみてはいかがでしょうか。たとえば、『素敵な蔵書と本棚』は、住まいの各部屋をめぐりながら、本の様々な

収納アイデアを豊富な写真とともに紹介しています。また、本のお手入れ方法も載っており、大掃除の参考になる一冊です。大掃除で身の回りをきれいにし、新たな気持ちで新年を迎えましょう。

「素敵な蔵書と本棚」
ダミアン・トンプソン著
ガイアブックス
597ト
篠崎ほか所蔵



江戸川まいにんぐ 発掘 第33回 「スクールグラフィティ 寺子屋編」



江戸川区内のイベントやスポットをスタッフが調査して身近な情報をお届けする、地域密着型のコーナーです。

今回は時代を遡って江戸時代の教育にスポットを当ててみました。

江戸時代における庶民の教育機関は寺子屋でありました。江戸川区の寺子屋は、下平井村の田口初右衛門が文化9年（1812年）に開いたのが最も古く、幕末までに20余りを数えます。

文久元年（1861年）上篠崎村で開業した寺子屋では、月謝は3銭、教師は無給でした。午前7時までに集まり午後3時解散で、塾則などもありました。教えていたのは筆道つまり習字です。江戸川区では寺子屋師匠の職業は農業が多く、生徒の構成は10～13歳までの男女が中心でした。14歳以上の生

徒は極端に少なく、これは江戸川区域が農村地帯であったことから、働き手として野良仕事や子守りに雇われていく子どもが多かったからだと考えられます。

当時は寺子屋の生徒を寺子とか筆子と呼びました。その筆子たちが師匠の菩提を弔うために建立した供養塔を筆子塚といひます。

江戸川区内には二十数基の筆子塚が残っています。筆子塚には筆子の出身村名が刻まれているものがあり、筆子たちの通学範囲を知ることができます。現在も残るこれらの塚から、当時の師匠と生徒の結びつきの強さや、師匠を慕う筆子たちの心をうかがい知ることができますね。

参考資料

「江戸川区史 第1巻」

江戸川区区史編纂室編

K1-21-1

篠崎ほか所蔵

「江戸川区史 第2巻」

江戸川区区史編纂室編

K1-21-2

篠崎ほか所蔵

「むかしの江戸川区」

江戸川区郷土資料室編

K-21

篠崎ほか所蔵

「江戸川区の文化財 第12集」

江戸川区教育委員会教育推進課文化財係編

K1-70-12

篠崎ほか所蔵

ライブシネマ篠崎

「嘆きの天使」 （1930年、ドイツ）

監督：ジョセフ・フォン・スタンバーク
出演：マレーネ・ディートリッヒ
エミール・ヤニングス ほか

12月15日（日）

14時 開演（13時30分 開場）

場所：篠崎文化プラザ 講義室
定員：70名（当日受付、先着順）
どなたでも参加できます。
入場料：無料

中年のクソ真面目な高校教師がキャバレーのダンサーの色香に迷ってヒモになり、雄鶏の声を得意とするドサ回りの道化役者となる。そして、女に古雑巾のように捨てられ教室で死を迎える。ほろ苦い人間像をつきつめた作品。

人物ブックマーク

人物ブックマークとは、著名人とその著作および関連本を紹介するコーナーです。

第二十五葉 片倉小十郎景綱

片倉小十郎景綱は伊達政宗が最も信頼した家臣の一人です。

景綱は米沢の成島八幡宮の宮司、片倉景重の次男として生まれました。政宗の父輝宗の小姓となった景綱は十九歳のときに、当時九歳の政宗の傳役として養育係に抜擢されました。天然痘の病毒で飛び出た政宗の右眼の眼球を突き潰したのも景綱といわれ、幼少期から二人の強い信頼関係がわかります。

軍師となった景綱はその頭脳で政宗を支えました。豊臣秀吉から北条討伐の小田原参陣を促されたとき、参加せず秀吉軍相手に徹底抗戦との周囲の意見に対し、

景綱は小田原参陣を勧めました。当時天下人であった秀吉率いる軍の勢いを考えての判断でした。政宗は景綱の意向をとり、結果的に政宗たちはこの危機を上手く乗り越えました。景綱の力を高く評価した秀吉は、景綱を自身の家臣に誘いましたが、景綱はその誘いを断ったそうです。

景綱は生涯、政宗の家臣としてその身を捧げました。そして、現在片倉家の十六代当主は政宗を祀る青葉神社の宮司をしています。時代を超えてもなお政宗の近くにいる片倉家の姿はとても素敵ですね。

関連書

「片倉小十郎景綱」	江宮 隆之著	学研	BFエ	中央所蔵
「伊達政宗 秀吉が舌を巻き、家康が恐れた独眼竜」	歴史街道編集部編	PHP研究所	289.1タ	篠崎ほか所蔵
「伊達政宗 奥州より天下を睨む独眼竜」		学研	289.1タ	篠崎ほか所蔵

スタッフのセレクション

篠崎図書館で働くスタッフが選んだおすすめ本を紹介します。

「百瀬、こっちを向いて。」

中田 永一著 祥伝社文庫 BFナ 篠崎所蔵

皆さんは長編小説と短編小説、どちらが好きですか？長編や大作をじっくり読むのもいいですが、時間がないときにさっと本の世界に浸れる短編集なんかもまた面白いものです。そこで今回は、手軽に読める短編小説をご紹介します。

『百瀬、こっちを向いて。』は、表題作を含む4作を収録しています。主人公は皆、顔も成績も普通、目立つ特技もなし。クラスに必ずあるちょっと地味で大人しいグループにいたような人たちです。こう言っては彼らに失礼な気もしますが、身の回りのすぐ近くにいそうで親近感の湧くキャラクターたちばかりです。

複数の小説が入っているのであらずじは割愛しますが、

本作は全て恋愛小説という体裁をとっているのに、実際は甘酸っぱさから甘い部分を取り除いたような作品ばかり。「主人公は必ず相手と結ばれるの！」というハッピーエンド主義の方は、少し物足りないと感じるかもしれません。恋愛小説なのにドキドキが足りない、それがこの小説集なのです。

しかし、読み終わる頃にはその淡白さがやみつきになります。現実の恋愛の多くも、ドキドキして楽しいときもありますが、必ずしも相手と結ばれるわけではありません。理想ではないけれど身近な恋愛。それをこの小説たちは表現していると思います。読んでみれば、きっとどれか1つはお気に入りの作品になることでしょう。

編集後記

焼きモチに、すりおろしたショウガや大根をつけて食べるのが好きです。（風雲ふわふわ丸）／ずっとやってみたかった風揚げを、2014年は実行できそうです！（かき氷職人）／忘年会新年会、お酒飲んではいしゃぎすぎると、体Damageきっとありマス。（M.弱尊）／お鍋やおでんが美味しい季節。美味しいもの食べて温まりたいです。（てんてん）

編集・発行：江戸川区立篠崎図書館
住所：〒133-0061

江戸川区篠崎町7-20-19
篠崎文化プラザ内

TEL: 03-3670-9102

[しのぎ文化プラザHP]内篠崎図書館ページ
<http://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library/>